

2019年12月29日

福音書からのメッセージ

初めに言があった。言は神と共にあった。
言は神であった。

(ヨハネによる福音書1章1節)

ヨハネ福音書の冒頭は、このような言葉から始まります。しかしこの箇所は長く信仰生活を送っている人ですら、難しく感じるかもしれません。

わたしたちはこの25日に降誕日を迎えました。今日、「初めに言があった」という箇所に聞いているのは、この「言(ことば)」とイエス様を同一視しているからだと思います。しかしそうだとすると、なかなかそのことを受け入れることができないことも事実です。知識が邪魔をして、すんなりと心に落ちないことも多いでしょう。2000年も前に生まれた人が自分と関係があるなんて、すぐに信じることができない。自分で見たもの、確かめたものでなければ、わたしたちはなかなか理解できないのです。

わたしは先日、清里にある清泉寮に行ってきました。その中で、体験プログラムというものに参加しました。夜のプログラムでしたが、みんなで集まってレンジャーと呼ばれる案内人の人と一緒に出掛けました。ロビーで集まったときに、まず全員に赤いシートが配られました。最初は広場に出て、満天の星空を眺めます。あれが何座で、それが天の川でと、なかなか見られないすばらしい星空に圧倒されながら、次に森の中に出かけて行きました。だんだんと建物から遠ざかっていき、足もともよく見えなくなっていく。2つの懐中電灯の明かりだけをたよりに、奥へと歩いて行きました。

少し歩いて到着したのは、ちょっとした広場になったような場所でした。そこでレンジャーはわたしたちに言います。「さあ、



赤いシートを広げて、その上に寝そべってください」。そこには一面、雪が積もっていました。とても冷たそうです。しかしわたしたちは言われた通りにシートを広げ、寝そべりました。静かに5分間、シートに寝そべった状態で空を見上げます。木々の間から、星空が顔をのぞかせます。最初は冷たかった背中も、少しずつ温もりを帯びていきます。顔には細かな雪が、ずっと降り注いでいきます。その雪が最初は嫌で、何度も顔をぬぐっていました。でもだんだんと心地良くなり、何かに包まれているような感じになっていきました。5分の合図があるころには、すっかり穏やかな気持ちになっていきました。神さまに包まれるってこういうことなのだろうか。イエス様がわたしたちの間にいるということは、こういうことか、頭ではなく体で、そのように感じていました。

もしもわたしたちが頭で聖書を理解しようとする、それはとても難しいことでしょう。しかし幼子のような心で、目を閉じて、耳をすまし、五感すべてをお委ねする。大地に大の字で寝ころがるように、両手を広げて力を抜き、イエス様のふところに飛びこんでいくときに、イエス様を感じることができるのかもしれません。

主は共におられます。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>